



一般社団法人

日本金融商品仲介業協会

Japan Institute of Financial Advisors

第2回 セミナー

「GAIAはなぜTOKYO PRO Marketに上場したのか？」

2024/6/21 (金) 16:20~17:20

GAIA株式会社 代表取締役社長

中桐 啓貴



山一証券、メリルリンチ日本証券を経て、米国流の資産運用コンサルティングで長期で顧客に寄り添いたいと2006年GAIAを創業。短期売買ではなくお客様の資産残高が増えることが収益につながるフィーベースの手数料体系で、顧客本位な経営を実現している。

IFA(独立系金融アドバイザー)のパイオニアとして16冊の著書があり累計10万部を超える。近著は『日本一カンタンな「投資」と「お金」の本』(クロスメディア・パブリッシング)。2020年4月より一般社団法人日本金融商品仲介業協会の理事長を務める。



GAIA株式会社 執行役員管理部 長 窪田 淳行

証券会社の株式トレーディング部からキャリアをスタートさせ、前職の運用会社では15年間ファンドマネージャーとしてシンガポール拠点にも出向。日本株を中心にアジア株全般の機関投資家向け運用に携わる。GAIA代表の中桐とは学生時代に英国留学で知り合ってから旧知の仲で、縁あって2022年10月にGAIAの管理部長として着任。着任と同時に上場準備に取り掛かり、GAIAの成長をバック部門から支えている。

株式会社日本M&Aセンター
TOKYO PRO Market事業部 上場推進部 副部長

横田 賢一



2012年大手証券会社に入社、リテール営業を経て、
2015年よりIPOを中心とした投資銀行業務に従事、ベン
チャー企業を中心とした新興市場の上場支援業務に携
わる。

2020年日本M&Aセンター TOKYO PRO Market事業部
に参画。以降、TPM上場準備支援、コンサルティング業
務に従事。

上場までの流れ

上場までの流れ

2016年10月～ 上場準備開始

2021年10月～ 日本M&Aセンターと契約

2022年1月～ 監査法人と契約

2023年5月～ 上場審査想定質問

2023年10月～ 上場審査

2024年3月8日 上場承認

2024年3月27日 上場

GAIA(証券コード: 154A)

[引受証券会社]: 日本M&Aセンター

[決算月]: 12月

[資本金]: 71百万円

[上場時発行済株式数]: 140,200株



上場を目指した理由は？

なぜ

TOKYO PRO Market なのか

TOKYO PRO Marketとは？

国内新規 IPO件数の推移

- 2023年の新規上場会社数は124社で、10年間では2番目に高い水準となった
- 2024年は6/18時点で48社が新規上場。うち19社がTOKYO PRO Market



※東京証券取引所、名古屋証券取引所、福岡証券取引所、札幌証券取引所の全市場における国内新規株式上場件数を集計。

東証各市場の位置づけと上場会社数



一般社団法人
日本金融商品仲介業協会
Japan Institute of Financial Advisors

東京証券取引所 上場企業総数 = **3,937** 社

誰でも投資できる市場(一般市場)

PRIME

高い統治水準と時価総額で
グローバルな投資対象となる
企業

1,645

STANDARD

一定の統治水準と時価総額
で主に国内を基盤とする企業

1,603

GROWTH

小規模でも高い成長が
期待される新興企業

584

【上場基準】

株主数 **800人以上**
流通株式比率 **35%以上**
流通株式時価総額 **100億円以上**

400人以上
25%以上
10億円以上

150人以上
25%以上
5億円以上

プロ投資家向け市場

TOKYO PRO Market

柔軟な市場設計を持つ
成長意欲のある中堅中小企業向け市場

106

【上場基準】

株主数 **基準なし**
流通株式比率 **基準なし**
流通株式時価総額 **基準なし**

TOKYO PRO Marketの特徴

	プライム/スタンダード/グロース	TOKYO PRO Market
基準	形式基準あり 高い基準をPassしないといけない	形式基準ナシ 柔軟な上場基準が許容されている
株式	誰でも株を買える 不特定多数の株主が紛れこむ	株主構成を変えず上場できる 支配権の維持が可能
期間	約5年間(監査期間 = 2年) その分コストもかかる	約2年間(監査期間 = 1年) 上場コストも大きく削減できる
上場準備 審査	東証・証券会社 2回の審査 厳しい審査もすべて自力で対応	準備も審査もJ-Adviserが担当 安心・着実に上場準備に取り組める

TOKYO PRO Market上場のメリット

TOKYO PRO Market特有のメリット

外部株主が
増えない



敵対的買収の
恐れがない



市況に左右
されない



資金調達も
できる



東証上場企業としての上場メリットは全て享受できる！



信用度・知名度UP



管理体制の強化



従業員士気向上



個人保証の解除

TOKYO PRO Marketであれば上場のデメリットも軽減

一般市場への上場の場合、以下のデメリットも起こりうる

	上場の 不確実性	上場したい全企業が 上場できる訳ではない
	外部株主 の存在	経営への干渉・ 敵対的買収リスク
	多額の 上場コスト	一般市場上場の場合 1億円以上に及ぶことも
	株価・業績に 振り回される	株価変動や株主の動きが 経営へ影響を与える

きちんと準備すれば、
スケジュール通り上場可能

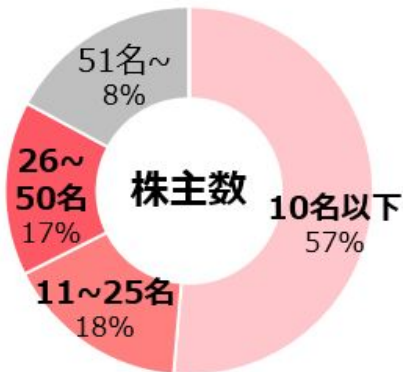
株主構成を変えずに上場可能
株式の売買先の顔が見える

J-SOX、バナンスコードの適用任意
上場コストが低く上場期間も短い

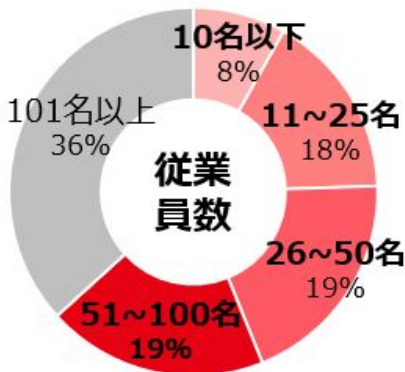
株式市場での取引が少なく
株価の影響を受けず経営

TOKYO PRO Market上場会社の特徴

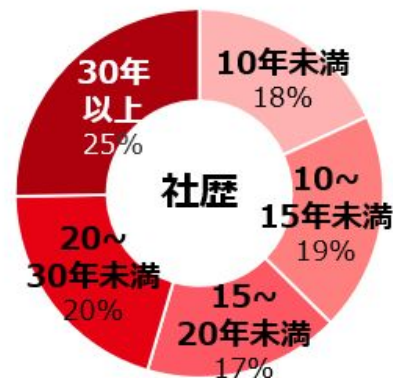
9割超が株主数**50名以下**



約6割が従業員数**100名以下**



ベンチャーでも**老舗**でも



様々な業種が上場(※一般市場の場合、サービス業が7割)



※2012年~2023年までにTOKYO PRO Marketへ上場した会社を対象に集計

参考:直近のTOKYO PRO Market上場会社

上場日	社名	本社	業種	年商	経常利益	従業員	J-Adviser	監査法人(監査報酬)
2024/7/11	小野谷機工	福井県	タイヤサービス機械製造販売	70億円	3.2億円	301名	日本M&Aセンター	清稜(1,100万円)
2024/6/27	シュンピン	京都府	ブランディングコンサルティング	10億円	0.1億円	42名	フィリップ証券	やまぶき(750万円)
2024/6/27	タイヨーパッケージ	富山県	医薬品等パッケージ製造、印刷	38億円	1.0億円	193名	日本M&Aセンター	OAG(1,200万円)
2024/6/24	ライティングコーポレーション	大阪府	省エネ機器等の施工販売	35億円	2.7億円	47名	Jトラストグローバル証券	新月(980万円)
2024/6/20	グローバルス	東京都	不動産開発事業	60億円	3.3億円	48名	宝印刷	四谷(390万円)
2024/6/18	ミモザ	東京都	介護サービス	139億円	1.5億円	807名	日本M&Aセンター	東海会計社(1,200万円)
2024/6/7	メディアエ	東京都	EC支援サービス	5億円	0.5億円	15名	JIA	FRIQ(700万円)
2024/5/28	リサイクルテック・ジャパン	愛知県	遊技機リサイクル・リユース事業	41億円	9.0億円	72名	日本M&Aセンター	コスモス(740万円)
2024/4/11	エージェンテック	東京都	ソフトウェア開発	7億円	1.7億円	43名	フィリップ証券	コスモス(708万円)
2024/3/29	ネオホーム	熊本県	戸建住宅の設計、販売	12億円	0.2億円	18名	日本M&Aセンター	新月(670万円)
2024/3/28	ゼロジャパン	埼玉県	ブランド品・貴金属買取販売	30億円	2.0億円	106名	日本M&Aセンター	東光(1,100万円)
2024/3/27	GAIA	東京都	IFA事業	5億円	0.3億円	30名	日本M&Aセンター	東海会計社(840万円)
2024/3/27	オブティ	三重県	尿素水の製造販売	24億円	0.8億円	13名	日本M&Aセンター	五十鈴(700万円)
2024/3/25	アップルパーク	東京都	コインパーキングの運営	46億円	4.5億円	95名	日本M&Aセンター	新月(900万円)
2024/3/22	三葉	福岡県	児童発達支援等教育サービス	28億円	1.6億円	374名	日本M&Aセンター	Ks Lab(1,200万円)
2024/3/19	エクセリ	東京都	無線通信機器販売・レンタル	17億円	0.5億円	35名	日本M&Aセンター	ふじみ(820万円)
2024/3/13	エネルギーパワー	大阪府	電力小売、電気工事	29億円	1.2億円	26名	フィリップ証券	あおい(800万円)

TPMを経由して一般市場へ市場替えした事例 (11社)

	社名	ステップアップ市場	TPM 上場年	TPM上場時 時価総額	新市場 上場年	新市場上場 初値時価総額	新市場上場 所要年月
東証 一般 市場	歯愛メディカル ⁽³⁵⁴⁰⁾	JASDAQ(東証スタンダード)	2016/6	240億円	2017/12	403億円	1年6ヶ月
	AIAIグループ ⁽⁶⁵⁵⁷⁾	マザーズ(東証グロス)	2017/10	12億円	2019/12	98億円	2年2ヶ月
	ブリッジコンサルティンググループ ⁽⁹²²⁵⁾	東証グロス	2022/5	30億円	2023/6	83億円	<u>1年1ヶ月</u>
	ジェイ・イー・ティ ⁽³⁵⁴⁰⁾	東証スタンダード	2021/3	107億円	2023/9	198億円	2年6ヶ月
	アスマーク ⁽⁴¹⁹⁷⁾	東証スタンダード	2022/1	11億円	2023/12	23億円	1年11ヶ月
	STG ⁽⁵⁸⁵⁸⁾	東証グロス	2019/6	27億円	2024/3	31億円	4年9ヶ月
地方⇒ 東証	ニッソウ ⁽¹⁴⁴⁴⁾	名証セントレックス	2018/2	8億円	2020/3	12億円	2年1ヶ月
		東証グロス			2022/7	19億円	2年4ヶ月
地方 市場	フロンティア ⁽⁴²⁵⁰⁾	福証Qボード	2018/7	4億円	2021/10	6億円	3年3ヶ月
	Geolocation Technology ⁽⁴⁰¹⁸⁾	福証Qボード	2020/12	3億円	2021/9	24億円	<u>9ヶ月</u>
	アップコン ⁽⁵⁰⁷⁵⁾	名証ネクスト	2021/7	13億円	2022/12	13億円	1年5ヶ月
	QLSホールディングス ⁽⁷⁰⁷⁵⁾	名証ネクスト	2019/11	28億円	2023/6	17億円	3年7ヶ月

※2024年6月18日時点。赤色セルが弊社・Adviser契約先

TOM⇒一般市場へステップアップ上場をするメリット

TOKYO PRO Marketを経由してから一般市場へ上場する場合の主なメリット

早期に
上場効果を
獲得できる



最大のメリット！！
「東証上場企業」
として圧倒的な信用力

経由しても
スケジュール
延期無し



TPM上場時の
監査証明を
引き継ぐことができる

上場ゴールによる
社員離脱抑止



上場準備期間が長いと
モチベーションダウンに…
退職に至るケースも

開示体制が
整えやすい



TPM上場中は
J-Adviserの開示支援を
受けられる

上場までの準備期間について

TOKYO PRO Market上場までの流れ

TOKYO PRO Marketの場合、上場準備期間は2年程度
上場後もJ-Adviserとの契約は継続する(上場維持要件の一つ)



管理部門の体制について

- ✓ 管理部管掌役員の選任
- ✓ 取締役会の適切な運営
- ✓ 内部監査の実施
- ✓ 監査役監査の実施
- ✓ 決算体制の構築
- ✓ 予算管理体制の構築
- ✓ 稟議制度・意思決定システム構築

上場後の変化について

質疑応答



一般社団法人

日本金融商品仲介業協会

Japan Institute of Financial Advisors